

【特別支援学級】第3学年 学級活動(2)指導案

令和7年9月22日(月)4校時

3年生 名

1. 題材「ぼくの気持ち落ち着きカードを 使おう」(ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成)

2. 題材について【*個人的な内容等については一部省略がある】

(1) 児童の実態

本授業は、特別支援学級に在籍する3年生の児童2名(知的障害、自閉症・情緒障害)を対象として実施する。両児童は、個々のペースに合わせた支援のもとで学習に取り組んでおり、安心できる環境の中では意欲的に活動に参加する姿が見られる。一方で、見通しが立たない場面や初めての活動に対しては不安を抱きやすく、参加に抵抗感を示したり、気持ちが落ち着かないまま活動したりすることがある。また、トラブル等により気持ちが高ぶった時には学習への集中が難しくなることがあり、自分の思いや困っていることをうまく伝えられずに、表情や態度、行動などを通して感情を表すことが多い。そのため、日々の学校生活の中では、「気持ちに気付く」「気持ちを言葉で伝える」「気持ちを落ち着かせる」といった自己理解や自己調整に関する学びが少しずつ積み重なるよう支援を行っている。

(2) 題材設定の理由

児童の実態でも挙げたように、イライラした時や気持ちが高ぶった時には、気持ちを抑えられずに行動に出してしまったり、気持ちを落ち着かせるのに時間がかかったりすることがある。自分の気持ちに気づきにくく、うまく言葉で表現できないことも多いため、感情が高まったまま過ごしてしまうことで、学習への集中や友達との関係に影響が生じているように感じる。

そこで、まずは道徳の学習の中で、様々な場面での気持ちを考え、「自分の気持ちにはいろいろなものがある」ことを知る。そして、学級活動の学習では、自分がどのような場面でどのような気持ちになったかを振り返りながら、自分の気持ちに合った落ち着き方を見つけていくことをねらいとしている。児童が自分の気持ちに気づき、適切に対応する手立てを身に付けることは、日々の生活を穏やかに過ごすためには必要不可欠である。一連の活動を通して、自分の気持ちに合った落ち着き方を実行できるようになり、自分自身で心のケアをしながら心の安定を図って、安心して学校生活を送ってほしいと願い、本題材を設定した。

(3) 指導にあたって

本題材の指導にあたっては、活動の手順やねらいを明確にするとともに、視覚的な支援や簡潔な言葉を用いることで、児童が見通しをもち安心して活動に参加できるようにする。また、表情カードや言葉リスト等を用いて言語的・非言語的な表出を支える支援を行い、児童が気持ちを表現できるようにする。

本時では、養護教諭をゲストティーチャーとして招き、マイナスな気持ちが出ることは自然なことであるが、その気持ちを溜め込まずに発散させたり、落ち着かせたりすることの大切さについて、スライド等を通して学ぶ活動を取り入れる。この活動を通して、感情のコントロールをするために、自分なりの対処方法を考えることが必要だと感じられるようにする。気持ちを落ち着かせる方法については、その後の生活の中で活用できるように、様々な気持ち落ち着きカードのモデル提示や実際に落ち着く方法を試す体験活動を取り入れながら、自分に合った方法を自ら選択する機会を設ける。その際、友達との会話を通して、より自分に合った方法を探すことができるようにする。

これらの活動を通して、児童が「自分の心と向き合い、自分で自分を整える力」を高め、心身ともに健康で安心して今後の生活を送るための基礎的な生活態度を育てていく。

3. 活動の流れと指導上の留意点・評価基準

	活動内容	時間	指導上の留意点	評価基準
事前の活動	・様々な気持ちの種類について知る。 ・様々な場면을提示し、自分はどうのような気持ちになるか考える。	9/8(月) 4校時(道徳)	○様々な気持ちの種類があることに気付くことができるようにする。 ○気持ちの感じ方は、人によって違うということを意識できるようにする。	気持ちにはいろいろな種類があることを理解している。 〈発言〉 (知識・技能) 自分の気持ちを考え、表現している。 〈発言・絵カード〉 (思考・判断・表現)
本時	「ぼくの 気持ち落ち着きカードを 使おう」	9/22(月)本時	本日の活動に記載	
事後の活動	・イライラした時などに自分が選んだ落ち着く方法を実践する。 ・友達とお互いの実践について、振り返る。	9/22(月) ~9/29(月) 9/29(月) 帰りの会の前	○実践できたことを称賛し、今後も自分に合った方法で感情のコントロールができるよう、児童の意欲を高める。	意思決定した、自分に合った落ち着き方を取り入れようとしている。 〈行動〉 (主体的態度)

4. 本時の活動

(1) 本時のねらい

日常生活を振り返り、気持ちを落ち着かせる方法には様々なものがあることを知る中で、実際に試したり、友達と対話したりしながら、具体的な場面に応じた自分の気持ちを落ち着かせる方法を取り入れることができるようにする。

(2) 展開

	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
つかむ	1 自分がどのような場面でどのような気持ちになったかを振り返る。	○表情のイラストカードを用意し、これまで自分がどのような気持ちになったかを、これまでの生活を振り返りながら、様々な場面について思い出せるようにする。 ○児童の状態に応じて指差しや発表など、表現方法を選べるようにする。 ○設定した場面について児童が選んだ気持ちを比べ、感じ方が人それぞれ違うことを意識できるようにする。	

さ ぐ る	2 養護教諭の話聞き、マイナスの気持ちを溜め込まずに発散させたり、落ち着かせたりすることの大切さを知る。	○マイナスの気持ちが出るのは自然なことだと伝え、素直な気持ちを表現できる雰囲気づくりに努める。 ○どうして様々な場面でマイナスの気持ちが出たのか問い、原因についても考えることができるようにする。 ○スライドや絵カードを用いて、視覚的に分かりやすく簡潔に伝える。	
ぼくの 気持ち落ち着きカードを 見つけよう。			
見 つ け る	3 「授業中」に気持ちを落ち着かせる方法には、どのようなものがあるか考える。	○「授業中」と「休み時間」の場面を提示し、それぞれの状況でどのようなことをすると気持ちを落ち着かせることができたか、これまでの経験を思い出せるようにする。	◎具体的な場面に応じた自分の気持ち落ち着きカードを探すことができている。 (思考・判断・表現) 〈観察・発言〉
	4 考えたことや実際に試したことを友達と対話し、自分に合った「授業中」に気持ちを落ち着かせる方法を見つける。	○思いつかない児童には、自分の好きなことをヒントにするとよいことを伝える。 ○気持ちが落ち着きそうな物をいくつか用意し、実際に使ってみて、自分に合った方法かどうか考えられるようにする。 ○友達との対話から、より自分に合った方法を見つけることができるようにする。	
	5 「休み時間」に気持ちを落ち着かせる方法についても実際に試したり、対話をしたりして自分に合った方法を見つける。	○様々な種類の気持ち落ち着きカードをモデル提示し、その中からも選ぶことができるようにする。他の方法を思いついた児童は、空欄の気持ち落ち着きカードに書き込む。	
決 め る	6 具体的な場面に応じた、自分の気持ち落ち着きカードを決め、発表する。	○自分の気持ち落ち着きカードが、具体的な場面に合っているかを確認してから決めるよう助言する。 ○具体的な場面に応じた自分の気持ち落ち着きカードを渡し、実生活で取り入れていこうとする実践意欲が高まるよう励ます。	◎具体的な場面に応じた自分の気持ち落ち着きカードを決めることができている。 (思考・判断・表現) 〈観察・発言〉